

萬世の大路

第 2 号

H19. 3. 1 発行

発 行 者

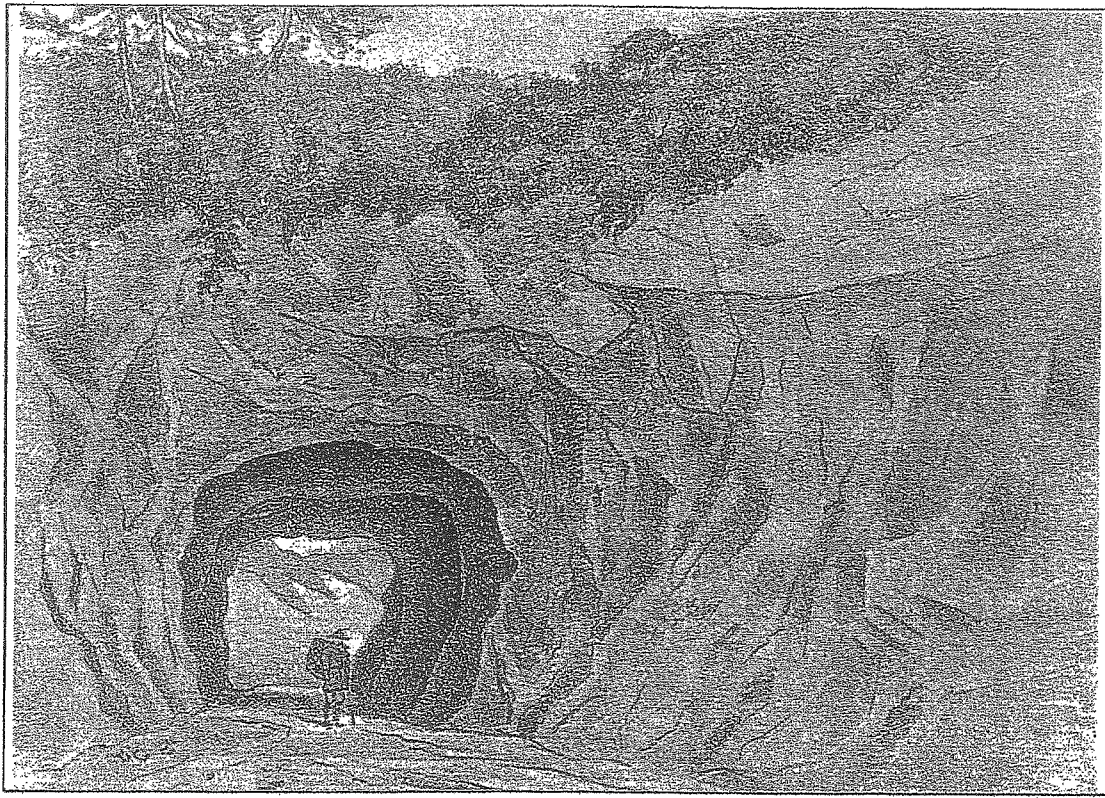
歴史の道万世大路、万歳の松

保存会 会長 田畑 實

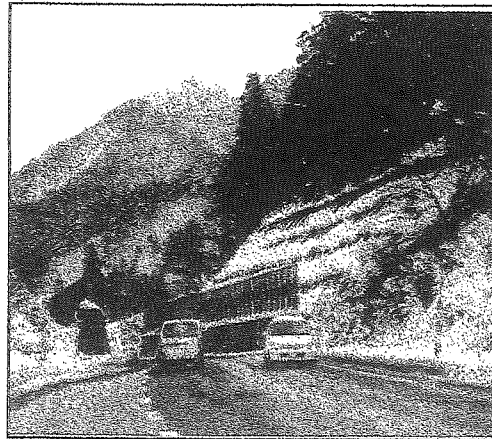
事 務 局

万世コミュニティセンター

Tel.0238-28-5381



石版画 南置賜郡万世新道ノ内字刈安隧道西口ノ図(高橋由一画・山形大学付属博物館蔵)



現国道十三号刈安掘割

刈安洞門の崩落

明治十四年の栗子隧道開通に伴う沿線の整備が行われた。梓山綱木から刈安集落に至るまでには、山の神山と疱瘡の神山の低いところに洞門を掘る計画をした。洞門の長さは百八十尺といいますが約五十四メートル程。栗子隧道を掘る手始めとしての洞門堀であったことでしょう。刈安洞門は明治九年に工事着工して、当初の刈安新道開鑿の輸送道路として活躍した。その後明治三十二年五月十五日鉄道奥羽南線福島米沢間が開通して、通行人が激減した後も刈安赤浜の人達の生活道路として重要な役割を果たしてきた。明治から大正にかけて洞門崩落防止として松の木柱を建て洞門内を補強していた。

それが大正十二年七月十六日に轟音とともに洞門が崩落した。洞門を補強していた松の木柱は折れ、東の方に倒れていた。刈安の人々の生活道路が閉ざされてしまった。馬車や荷車は通れず大変難儀し、人々は崩れた洞門の上を歩くしかなかった。その後土砂を取り除き切通した。現在の刈安口の堀割道路がその場所である。